



忘れたなんて言わせない！課題連絡システム

船越心花、武田ひとみ、石川綾乃

背景・目的

・課題連絡用システムを作ること、**今やるべきことの可視化**や**勉強効率、学力の向上**につながるのではないかと思ったから。

・先生側も**今どれくらい課題が生徒に出ているのか**を把握しやすくなるのではないかと思ったから。



すでに分かっていること

- ・勉強で忙しい生徒にとって課題連絡用ツールの必要性は高い。
- ・通知機能やチェック機能、課題の進行状況が確認できる機能が必要。

仮説

- ・一覧性があるため勉強効率や提出率が上がるのではないか。
- ・チェック機能をつけることで生徒も先生も課題の進捗状況を把握しやすくなるのではないか。

研究の方法

- ①課題システムを製作し、生徒に一度、課題連絡用システムを使ってもらう。そしてほしい機能などのアンケートをとりシステムを改善する。
- ②アンケートの結果をもとに機能を足していく。
- ③生徒の課題の提出率を調べる
- ④生徒だけでなく、先生にも協力していただき、先生が入力した課題が一覧で表示され、それを生徒が見るという流れを一度試す。
- ⑤使ってもらったあとに課題の提出率を調べ、システム使用によって課題の提出率が上がったかどうか検証する。

結果

- ・カレンダーに反映できなかった→課題がある日のみスプレッドシートに反映した
(自分の学科を指定し課題を見ることができる、完了・未完のチェック機能がつけられる、拡張機能で自分のメールアドレスを入力し提出日の数日前からG-mailに通知がくる)
- ・2学期に2年次の生徒を対象に調査を行った→配信後、不特定の人にエラーが表示されてしまったため解決策を動画で配信した。
- ・生徒対象のアンケート結果↓
使用率 59.3% / エラー表示あり 22.3%
良かった点：一覧性がある、スマホで確認できる
改善点：通知の仕方を伝えきれなかった

結論

- ・提出率の向上という結果から、課題連絡システムが生徒が課題を計画的に進める手助けになったのではないかと考えた。
- ・使い方がわからなかった人が4割弱いたことから、生徒にとってより使いやすいシステムを目指すべきと考えた。

考察

- ・エラーが起こる人とエラーが起こらない人がいたのは、スプレッドシート上の設定が関係しているのではないか。
- ・使いやすさを向上させれば、より多くの人使ってもらえるのではないか。
- ・生徒、先生どちらにとってももっと負担の少ないシステムにできるのではないか。

今後の展望

- ・先生側からのニーズを再度考え、誰が課題を入力すべきか考える。
- ・生徒から教えてもらった改善点を改善する。

参考文献

<https://auto-worker.com/blog/?p=2037>

・AutoWorker～Google Apps Script(GAS)とSikuliで始める業務改善入門 1月16日

<https://www.akaeho.net/google-sheets-t>

[odo-remind/](https://www.akaeho.net/google-sheets-t)・【Googleスプレッドシート】To Doリストの締め切りが近づくと自分宛てにリマインドメールを自動で送る 1月16日